

事例

05

「IT・IoTで変わった! IT・IoTが変えた!」

高松青果(株)

リーディングカンパニーの導入事例



高松市を拠点として青果物流通を支える卸売会社。市場外流通が増え、卸売会社自体のあり方が問われる中、ITを積極的に導入し、新しい青果物流の形を模索しています。

果 高松青果株式会社

〒760-0012
香川県高松市瀬戸内町40-12
(高松中央卸売市場内)
<https://www.takamatsuseika.co.jp/>

IT・IoT
なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「ウチの会社で、どう使ったらいいかイメージが湧かない...」。
そんな皆さま必見のコラムです。
高松のIT・IoT先進企業(リーディングカンパニー)が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載で紹介いたします。
第五弾は、高松青果株式会社。社長の齊藤良紀さんにお伺いしました。

基幹システム刷新! 情報の見える化をアップグレード

わが社の IT化こぼれ話 IT化がスムーズに進んだ3つの理由

その1 未来に対する不安

「何かを変えなければならない」「新しいことにチャレンジしなければ生き残れない」という空気が社内全体にあった。

その2 社員への丁寧な説明

これからはパソコンやインターネットの時代。会社のためではなく、自分のためにパソコンの習得をしようと真摯に伝えた。

その3 若い社員が多く在籍

若い人材を多く採用し、組織が若返った時期。パソコンは、入社間もない若手社員が先生としてベテラン社員を教育。

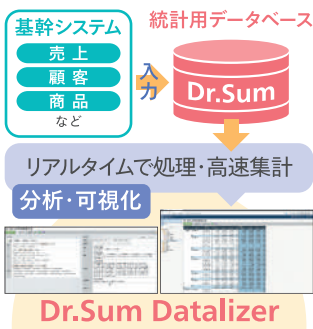
以降は、新たなデバイスの導入や新基幹システムの運用もとてもスムーズです!

業界に先駆けITを積極導入 生産性の向上を図る

高松青果では、若手社員が「営業の最前線で戦うための道具」として、業界に先駆けデータベースを活用して利益管理を行う基幹システムを導入。2019年に刷新しました。齊藤社長は「当社の資産は人しかない。『昨日の延長に未来はない』を合言葉に、全員の能力を上げ、会社全体の業務効率を高める仕組みを目指しています」と話します。

高松青果のIT化 - 現在までの流れ -

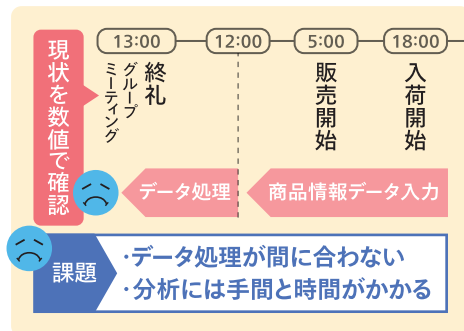
2019年	2005年	バブル後(就職氷河期)
基幹システム刷新 ●BIプラットフォーム導入	ベテラン社員退職ノハウのない若手社員増 ●基幹システム導入 ●データベースのプラットフォーム構築(2007)	若手社員積極採用 ●自社HP制作 ●就職情報サイト活用



膨大な情報を集約して分析するBIプラットフォーム
 新たに導入したシステムはデータ抽出のスピードが早く、同社の「入力締切後すぐに数値を確認したい」という要望を満たすもの。社員誰もが必要なデータを適宜入手し、状況把握や分析に利用できます。

課題 同社で1日に取り扱う商品の種類は3500以上。大半の商品は入荷の翌日には売りに出するため、終業前に各部門で行われる終礼(グループミーティング)で情報共有し、分析と次にとるべき行動の決定が欠かせません。しかし、終礼までに商品の仕入れや販売に関するデータ入力、処理を完了するには、データが膨大過ぎて間に合わないことも。

IT事例1 基幹システムと連携したBIプラットフォームの導入



12月号も引き続き高松青果のIT事例をご紹介します。お楽しみに!

業務効率があップ
終礼がより有意義に

効果
 ●終礼までに当日の売上げなどの確認やさまざまな分析が可能に
 ●データの可視化や分析業務の削減
 ●リアルタイムな分析結果から、今後の予測立てや次の一手が導き出せるようになります。

事例

05-②

「IT・IoTで変わった! IT・IoTが変えた!」

高松青果(株)

リーディングカンパニーの導入事例



高松市を拠点として青果物流通を支える卸売会社。市場外流通が増え、卸売会社自体のあり方が問われる中、ITを積極的に導入し、新しい青果物流の形を模索しています。

果 高松青果株式会社

〒760-0012
香川県高松市瀬戸内町40-12
(高松中央卸売市場内)
<https://www.takamatsuseika.co.jp/>

IT・IoT
なんとなく「便利になりそう」とは思うものの「ウチの会社で、どう使ったらいいかイメージが湧かない...」。
そんな皆さま必見のコラムです。
高松のIT・IoT先進企業(リーディングカンパニー)が、IT・IoTをどう活用しているかを毎月連載で紹介いたします。
第五弾の2は、先月号に引き続き高松青果株式会社の取り組みをご紹介します。

DXで新時代にふさわしい青果市場のあり方を模索

齊藤社長に聞く

IT・IoT化 今後の展望 物心両面の充実を目指すためのDX

働き方改革を進める上で大切なことは、社員の収入を減らさないこと。そのためには労働生産性の向上が必要であり、一番向上の幅が大きいのはデジタル化だと考えます。社員がこれまで以上に生き生きと活躍できると会社の未来が明るくなる。つまりは社員や社員の大切な人たちの生活を守ることにつながる。これはやる価値がある、と私は思います。

課題 働き方改革にともなう残業削減をめざす高松青果では、時間当たりの労働生産性向上が必要不可欠となっていました。しかし、取引先である生産者とのやり取りはFAXや電話が中心であり、情報交換も口頭伝達になりやすい等、業務効率低下の要因が多くありました。情報をシステムへ入力するだけでも多くの時間がかかり、その手間は、社員の大きな負担になっていました。経理部次長の平本さんは「生産者と現場をつなぐ新たなツールや仕組みが必要だった」と話します。

IT事例2

LINEを活用した現場と生産者をつなぐ仕組みづくり

高松青果のIT化 -大きな課題-

- 課題1 基幹システムへのデータ入力の効率化
- 課題2 業務引き継ぎの際の確実な情報伝達
- 課題3 幅広い年代の人が使いやすいIT導入

導入

生産者とのやり取りを手軽にデータで完結
青果流通向けのサービスを活用

